

教科名	地理歴史	科目名	歴史総合
対象	全スタイル	年次	1(本校) 2(連携校)
添削指導(回)	6	面接指導 (単位時間)	2
単位数	2	備考	必履修科目
教科書・補助教材等	歴史総合(東京書籍) プリント 東京書籍教科書授業インターネット講座		
学習の目的	近現代の歴史的事象と現在との結びつきを多角的に観察することで、国や地域への愛着を養うと共に、ひとつの歴史的事象に対して様々な解釈の仕方があることを理解する。		
レポート No	学習内容	学習のねらい・目標	
1	第1章 歴史の扉 第2章 近代化と私たち 1節 近代化への問い 2節 結び付く世界と日本の開国	○18世紀後半からイギリスで起こった産業革命が近代化の礎となり、社会にどのような変化を与え、また世界経済にどのような影響を与えたのかを学ぶ。 ○アヘン戦争を機に、東アジアの国際秩序が変化し、日本も開国したことによって東アジアは世界の資本主義経済の中へ組み込まれていったことを学ぶ。 ○産業革命の波及により、19世紀に入ると欧米諸国でも工業化が進み新しい産業が発展したこと、また19世紀後半には中国・日本などアジア諸国でも工業化が進展したことを学ぶ。	
2	3節 国民国家と明治維新 4節 近代化と現代的な諸課題	○市民革命によって社会の仕組みが変わり、国民国家の樹立が目指され、ナショナリズムと自由主義の運動が革命や独立運動につながったことを学ぶ。 ○欧米で定着した立憲制がアジアにも広まり、日本で制定された大日本帝国憲法がどのようなものであったのかを学ぶ。 ○列強の帝国主義政策によってアジア・アフリカが植民地化され、日本は日清・日露戦争を通して植民地支配を進めたこと、また世界の人々の帝国主義政策に対する態度について学ぶ。	
3	第3章 国際秩序の変化や大衆化の私たち 1節 国際秩序の変化や大衆化への問い 2節 第一次世界大戦と大衆社会	○第一次世界大戦が国力をつぎ込む総力戦であったこと、戦後はヨーロッパでヴェルサイユ体制、アジア・太平洋でワシントン体制という新しい国際秩序が形成されたことを学ぶ。 ○戦後、アジア・アフリカでは独立を目指して民族運動がさかんとなり、大衆の力を軽視できなくなった欧米や日本では普通選挙の確立など民主主義が発展したことを学ぶ。 ○近代化の過程で確立されたことが大衆化へとつながり、マスメディアの発達などが大衆化を促進したことを学ぶ。	

4	3節 経済危機と第二次世界大戦 4節 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	○世界恐慌の発生により、ドイツ・イタリア・日本ではファシズムが台頭し、第一次世界大戦後に築かれたヴェルサイユ体制・ワシントン条約という国際協調体制が崩壊していったことを学ぶ。 ○ファシズムの対外膨張により、アジアでは日中戦争、ヨーロッパでは第二次世界大戦がはじまり、これらが結びついてアジア太平洋戦争もはじまったことを学びます。また、戦争終結の流れと戦後構想についても学ぶ。 ○戦後、敗戦国の日本やドイツなどで連合国による占領政策が実施されるなか冷戦がおり、冷戦下で中国・朝鮮・ベトナムなどは分断されるかたちで再編されていったことを学ぶ。 ○日本はアメリカの意向を反映する形で占領政策が実施されていたが、冷戦による東西対立が深刻になると、資本主義陣営の一員としての役割を求められるようになったことを学ぶ。
5	第4章 グローバル化と私たち 1節 グローバル化への問い 2節 冷戦と世界経済	○冷戦が激化する中、1950年代半ば以降に「雪どけ」や第三世界の台頭がみられたこと、また米ソの軍拡競争による核戦争の危機やアジア・アフリカにおける地域紛争の頻発について学ぶ。 ○戦後、欧米先進国とそして日本は経済成長によって社会が変容したこと、また西ヨーロッパや東南アジアでは地域連携によって政治や経済における統合・連携がはかられたこと、そしてベトナム戦争が長期化するなか冷戦構造も変容したことを学ぶ。 ○戦後の先進国の経済成長の要因と人々の生活と社会が大きく変化し、一方で急激な経済成長によって公害や環境破壊が深刻化したことを学ぶ。
6	3節 世界秩序の変容と日本 4節 現代的な諸課題の形成と展望	○先進国ではベトナム反戦運動に代表される新しい動きと石油危機への対応として新自由主義の経済政策が実施されたこと、一方で東アジア・東南アジアでは著しい経済発展がみられ格差が生まれたことを学ぶ。 ○冷戦終結によってドイツ統一・ソ連解体などが起こる一方、東アジアでは分断が続き、冷戦によって抑え込まれてきた対立が地域紛争として中東で多発し、平和維持活動の役割が拡大していることを学ぶ。 ○冷戦終結の時期に世界各地で民主化が進み、またグローバル化や地域統合が進んだこと、一方でこれらはグローバル化の負の側面によって壁にぶつかっており、持続可能な社会の構築が求められていることを学ぶ。 ○グローバル化の負の側面により、先進国では様々な格差が拡大し、地域統合や民主主義も動揺が見られることを学ぶ。

学習上の留意点	グローバル化の時代を生きるための多角的な観点からの思考力，公正な判断力，豊かな表現力を身に付けることを目指す。	
評価の観点		評価方法
主体的に学習に取り組む態度	学習対象（社会的事象等）について主体的に調べ分かつようとして課題を意欲的に追究しているか。 よりよい社会を考え学んだことを生かそうとしているか。	レポート 授業態度 ノート 定期考査
思考・判断・表現	社会的な見方・考え方をを用いて，社会的事象等を見出し，社会的事象等の意味や意義，特色や相互の関連を考察しているか。 社会的な見方・考え方をを用いて，社会に見られる課題を把握し，その解決に向けて構想しているか。	
知識・技能	社会的事象等について（～は～であると）理解し，その知識を身に付けているか。 社会的事象等を調べまとめる技能（社会的事象等に関する情報を収集する・読み取る・まとめる技能）を身に付けているか。	